

## 令和4年度第2回

# さっぽろ建設産業活性化プラン推進協議会

## 議 事 録

日 時：2023年3月15日（水）9時30分開会  
場 所：ホテルモントレエーデルホフ札幌 13階 ベルヴェデーレ

## 1. 開会挨拶（天野建設局長）

皆様におかれましては、日頃より、札幌市政、とりわけ公共施設や都市基盤の整備や維持・保全を通しまして建設行政の推進に多大なるお力添えいただいておりますことに、この場をお借りして感謝申し上げます。

街中を見ますと、特に中心部では雪もほとんどないような状況で、間もなく春を迎える時期となったところでございます。

昨年の冬は、想定を大きく超える大雪ということで、市民生活にも多大な影響がございましたが、今冬は、早め早めの対応により、大きな影響を発生させることなく、シーズン終盤を迎えているところでございます。

これもひとえに、昼夜を問わず除排雪作業に従事していただいております建設産業の皆様のご尽力のたまものであると思っております。改めまして感謝を申し上げます。

また、今年度は、コロナ禍も大分落ち着いてまいりまして、建設産業のPRを目的とした各種現場見学会や体験イベントなども開催することができました。こういった様々な取組にも多くの団体や企業の方々にご協力をいただいております。重ねてお礼を申し上げます。

さて、本市は、昨年、市制100周年を迎え、次の100年に向けて歩みを開始したところでございます。昨年10月には、今後10年のまちづくりの基本的な指針である第2次札幌市まちづくり戦略ビジョンのビジョン編を策定いたしまして、目指すべき都市像として、持続可能な世界都市さっぽろを掲げました。これを実現するためには、やはり、これまで築き上げてきた都市基盤の適切な維持、更新、さらには、災害に強いまちづくりなどを着実に進めていかなければなりません。これらを着実に進め、次の世代に札幌のまちを引き継いでいくために、今後とも、建設業界の皆様の変わらぬお力添えをお願い申し上げます。

一方で、この1年を振り返りますと、建設業界では、資材価格の高騰やカーボンニュートラルへの対応など、新たな課題にも直面したところでございます。

とりわけ、資材価格の高騰に関しましては、札幌市としても建設業界への影響が非常に大きいという認識の下、秋元市長も国に対してスライド条項のより効果的・弾力的な運用を直接要望するなど、様々な機会を捉えて働きかけを行ってまいりました。

そうした中、国からは、インフレスライド条項に関しまして、従来から言われていました賃金水準の変更がなくても物価水準の上昇のみで適用が可能、という見解が12月に示され、札幌市におきまして、速やかにこれに準じて対応することといたしました。

ゼロ市工事やこれから発注します新年度工事におきまして、物価変動の状況などに応じましてこうした制度を活用していただければと思います。

最後になりますが、令和2年に策定しましたさっぽろ建設産業活性化プランは、今年で4年目を迎えます。これまで、プランに基づきまして、働き方改革や生産性向上に取り組んでまいりましたが、建設事業に対する時間外労働の上限規制の適用が1年後に差し迫るなど、令和5年度も様々な課題に対応していかなければならないと考えております。

効果的に取組を進めるためには、業界の皆様と市が課題を共有し、しっかりと連携していくことが必要でございます。

本日は、主に来年度の重点施策に関する意見交換をさせていただきます。ぜひ忌憚のない意見をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

それでは、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

## 2. 意見交換（進行：北海道大学 高野教授）

### 【議題1】令和5年度の重点施策（案）について

#### 〈事務局説明〉

以下の資料について、事務局から説明。

- ・資料3-1：令和4年度の実施内容、現状と今後の課題
- ・資料3-2：令和5年度の重点施策（案）と実施予定

### ◆重点施策Ⅰ：建設産業の魅力を伝える「PR事業」の推進に関する意見

#### 〈札幌市測友会〉

昨年の第1回協議会で、FMノースウェーブのラジオ番組に出演させてもらったときに業界の仕事の話をしたことを報告しました。これは、札幌市の広報部局から話をいただいたもので、建設関連の部局からではなかったため、テレビ・ラジオ・新聞といったマスメディアで広報できたらよろしいのではないかとということをお話しました。

令和5年度の重点施策のPR事業では、インターンシップのほか、ホームページやSNSの活用が書かれています。先ほど、この会議の前に動画を拝見しましたが、昨日、北海道新聞や北海道建設新聞等でも大きく報道されて、建設新聞ではQRコードもつけてもらったので、非常に見やすくなっていました。

ただ、ASMRはそしゃく音を楽しむ技術であると私は認識しており、技術的には良かったのですが、音がリアル過ぎと感じました。マニアがこれを聞いて楽しんでいただけるといのも一つの方策ですが、広く一般の方にといいところではあまりにも高度な技術過ぎたのではないかといい印象を受けました。

令和5年度の重点施策としては、マスメディアの活用というものを検討いただきたいと思います。3点目の「広報の検討」といいところに含まれていければいいなと期待しておりますけれども、やはり、ホームページ、SNSというのはい、見に行かなければいけない、YouTubeチャンネルも見に行かなければいけないといいいところと反して、テレビ、ラジオは勝手に伝えてくれて、発信してくれます。コマーシャルでもそうですけれども、もう少し市の発信というものを活用していただけたら大変助かると思いいました。

#### 〈事務局〉

広報部局と調整しながら、テレビやラジオなどのマスメディアの活用といいいことを検討

していきたいと思います。

#### 〈北海道大学 高野教授〉

札幌市では、テレビでの広報番組を行ってしますので、所管部署とうまく調整していただければと思います。

#### 〈札幌建設業協会札幌部会〉

今、お話がありましたけれども、先ほど流されていた動画は、各媒体のところに見に行くだけではなく向こう側から発信されるような流れが、というお話がありましたので、例えば、地下街とか地下歩行空間にあるデジタルサイネージなどで、15秒バージョンでもいいので、その瞬間、瞬間をジャックして発信しましたら、普段地下歩行空間等を利用されている一般市民の方々の目にも留まると思います。テレビCM、ラジオ等がすぐ実現するのが難しいのであれば、そういう公共施設のデジタルサイネージを活用するというのも一つの手かなと感じた次第です。

また、令和5年度の重点施策のPR事業の推進について、当協会の取組等を少しお話しさせていただければと思います。

まず、PR事業を推進していくに当たって、ターゲットを明確に絞るという視点が大切ではないかと感じております。その中のキーが二つありまして、一つが高校生や大学生の親世代の方ですね。特に、皆さんご存じのように、今はお母様が進路の決定権で一番力を有していらっしゃるという話もありますが、親世代の40代、50代の方に対してのPRが必要ではないかと感じております。

当協会におきましては、令和4年度に初めて札幌工業高校の保護者向けの現場見学会を開催させていただきました。そのときに、ICT建機のデモンストレーションなどを充実させていたこともありまして、参加した母親の皆さんに対して、建設業に抱いている従来のイメージ、危険、汚いという俗に言う3Kのイメージを変えるきっかけになったのではないかと感じております。

また、札幌建青会という組織がありまして、私が会長をさせていただいているのですが、コロナ禍もありましたので、3年ぶりに、会員企業で働く親御さんとそのお子様を対象に親子現場見学会を開催させていただきました。こちらも、親の働いている仕事の姿をお子さんに見せることによる効果や、ICT建機も充実させたこともありまして、少し先の建設業を体験、体感していただくきっかけになったのではないかと考えております。

2点目のキーは、先ほど、工業高校に進む定員数がどんどん減少しているというお話がありましたが、工業系の高校ないし大学に進もうと思っていただく中学生などをターゲットにしていく必要があるのではないかと感じております。

当協会におきましては、令和4年度に札幌商工会議所主催で初めて開催された出張お仕事体験会に参加させていただき、非常に好評でありました。建設業の特徴や全体像などを

説明するとともに、実際に働く人、特に除雪作業に従事する若い女性や設計会社に再就職をした子育て中の女性の建築士なども登場いただいたことから、女子生徒に関心が高かったように感じております。このため、工業系の高校や理系の進学を選択していただけるようなPR事業をこの協議会を通じても積極的に発信していく必要があるのではないかと思います。

#### 〈建設コンサルタンツ協会北海道支部〉

重点政策Ⅰの建設産業の魅力を伝える「PR事業」の推進ということでは、各委員の皆さんから非常に貴重な意見が出たかと思えます。

コンサルタンツ協会としても、コンサルタントという言葉自体が社会性にちょっと乏しいということで、就職活動あるいはインターンシップ等で建設コンサルタントそのものについての説明に苦慮しているところがあります。そういったことから、内容については少し深掘りしていく必要があるのかなというところではございますが、協会としてもそういう活動をしているというのが現状でございます。

そして、これは個人的な意見として述べさせていただきますが、建設産業の魅力を伝えるということになりますと、その前提として、インフラの必要性を教えるということが大変重要ではないかと思えます。そこで、活性化プラン全体の構成を見ますと、目標7の横断的な取組、施策7-4に教育分野との連携というものがございます。現在は、関係部局と調整、検討していくというところで、継続検討中ということでプログラムが組まれているところがございます。

そこで、提案でございますけれども、札幌市の社会基盤の重要性、まちづくりや維持管理の必要性について教育分野と連携した活動をPRと関連した中で推進することがかなわないのかというところではございます。例えば、小・中学生の教材・副読本の作成、教育展開ということになります。

予習的に札幌市のホームページを参考にさせていただいたのですが、平成23年から25年に札幌らしい交通環境学習検討委員会というものが開催されました。それ以降、平成26年から札幌らしい交通環境プロジェクトというものが進んでいるそうです。公共交通、「わたしたちの札幌」などの教材、教育教員向けの指導要領などへも定期的に進めて、社会科の教育の中にまちづくりとか建設の必要性などを取り込んでおりますので、そういった基盤も含めて進めると、最後に産業のPRというものにつながるという相乗効果に寄与するのではないかと、という提案でございます。

#### 〈北海道大学 高野教授〉

札幌市が行っている交通環境の教育の話ですが、小学校との連携に私も関わっていましたが、交通の話より前に、雪に関する副読本が作られていたこともあって、そのあとに交通環境の話ということになっていきました。

しかし、実態としては、小学校の副読本に様々な業界のことを取り上げてくれないかというオファーがたくさんあって、小学校としては、その数あるオファーからどのように内容を選定するのか、大変苦慮しているという話を聞いております。一方で道路の除雪や施設の維持管理は生活に身近な話ということで、社会の科目の中でそういうものも取り上げられていると聞いています。

#### 〈事務局〉

教育分野との連携に関する取組としましては、今回作成した小学生向けのパンフレットについて、雪対策室が中心となって行っている「雪体験授業」という小学生向けの授業の中で、パンフレットの配布や説明を行う機会を設けられるように、調整を進めているところでございます。

#### 〈北海道大学 高野教授〉

次の議題でもありますけれども、「建設ワールド」という冊子を仲立ちとして小学校との連携を強化していこうということですね。そのためには、冊子を配るだけではなくて、本当は授業で取り上げていただくとか、そういうところまで考えていただくと良くなるのではないかと思いますので、よろしく願いいたします。

#### 〈下水道河川局管路担当部〉

今年度の企業アンケートでは、担い手確保に向けてどういった部分をPRすべきかという意見を伺っている中で、転勤がないとか、親元から通勤できるなどの働く場所に関する意見のほか、自分が育った地元で貢献できるといったやりがいに関する意見を数多く頂戴しているところでございます。その一方、8割以上の企業から、必要人数が確保できないという切実な回答もあって、こういった人材確保のためのPR手法というものは何かしら考えていく必要があると感じているところでございます。

今後、市内の学生を含めた若い世代に、地元企業にいかに就職してもらうか、東京、大都会よりも札幌はいいところなのだ、という魅力を感じてもらう取組が今後求められると思っております。

そこで、私ども下水道河川局としても、後ほどご紹介させていただきますが、今年の8月に東京以北で初めて行う大規模な下水道展について招致を行うことなどを含めた広報活動にもかなり力を入れてるところでございます。今後も、皆様のご協力をいただきながら、下水道展などを通じながら、我々行政サイドとしても、広報活動に力を入れて、人材確保に取り組んでいきたいと思っております。

#### 〈北海道大学 高野教授〉

札幌は、男子は道外に出ていく方が多くて、女子は道内各地から札幌に移ってこられる

方が多く、男女の比率を見ると全国の中でも女性が多い状況になっています。そういう意味では、いかに男子を就職のときに引き止めて、こちらで働いていただくかということも大きな課題である、ということは昔から言われています。札幌というのは大変魅力的なマチであるはずなのですが、道外に就職してしまう人も多いということです。反対に、道内では、他都市よりも札幌の方が魅力的なので、他都市から札幌に来過ぎて困るという意見も出ています。札幌市の魅力を伝える広報についても、引き続き検討が必要と思います。

## ◆重点施策Ⅱ：担い手の確保・定着に向けた「環境整備」の推進に関する意見

### 〈札幌市測友会〉

重点施策Ⅱにワーク・ライフ・バランスが入っておりますが、以前、当測友会でも市役所の男女共同参画課の職員にお越しいただいて研修会を開きました。おかげさまで、当会の会員企業は60数社ありますけれども、多くの会員企業がワーク・ライフ・バランス plus の企業認証登録をしております。

登録企業が入札で有利になるようなインセンティブとございますか、総合評価落札方式の点数に反映してもらえるのであれば、取組が促進されると思います。

また、登録企業に対する支援内容で融資にも触れておりますけれども、当社はSDGsにも取り組んでおり、道庁のSDGs推進ネットワークというところに登録しております。これに登録すると、北海道信用保証協会の保証料、手数料が割引になるというなかなか大きな特典がございます。こういった情報をもう少し強くPRしてもらえたら、登録企業が増えるかもしれないと思いました。

### 〈財政局管財部〉

総合評価については、これまで色々な型式を追加しながら試行を行ってききましたが、現在、それらを含めて検証を行いながら、本格実施に向けて検討しているところでございます。評価項目につきましても、常時変化しているところがありますけれども、例えば人材育成というところの型式をつくっていききたいということで、様々な要因を含めながら、今後も色々なものを考えていく必要があると思っております。総合評価については、本格実施に向けて、様々なことを考えながら、今後も進めていきたいと思っております。

### 〈都市局建築部〉

資料3-1の3ページにあったのですが、担い手確保・定着ということで言いますと、年々、工業高校や大学の専門課程を選択する生徒数が少なくなっているという話を聞かれています。企業の中では、普通科の卒業生を採用したという話を聞くようになりました。昔のバブル期には、海外の現場に対応するのに、建築の学生に英語を教えるより英語が分かる者に建築を教えた方が早い、という話を聞いたこともありましたが、現状、採用されてい

る学生の状況や普通科の学生に対して、採用後、どのような教育、育成をされているのかという現状をお聞かせいただけたらありがたいです。

#### 〈札幌塗装工業協同組合〉

私どもの組合では、塗装技術学院というものをもって、組合員の会社に入った方には、この学院に入れてもらっています。もちろん新卒の方もいますし、途中から入られた方、全く違う職種から入る方もいて、塗装はゼロのところから1年間学べるようになっていきます。まず、4月、5月の2か月間、学院で塗装の実務から学科を学んで、6月から各会社に戻って指導員の下で指導を受けながらやっていきます。そして、12月に学院に戻ってきて、3月の初めぐらいまで、改めて実務と学科を学びます。学科は、法律から始まって色々なことを学ぶのですが、試験があって、それに合格すると、2級の建築塗装の技能士補という資格がもらえて、卒業してから、その年の7月ぐらいにいつも検定試験がありますが、2級の建築技能士という試験を受けられます。

学院で学ぶ一番のメリットは、この試験を受けるときに学科が免除になるところで、9割以上の学院生が合格しています。うちの組合に入っていない方は、会社で教えながらやっていて、合格率は5～6割ということで、どうも学科の方で落ちる方が多いような状況です。昨年も14名ぐらい入職した方が学院に入り、今回卒業するのが12名ということです。

退職されるという方も必ず数名出てくるのですが、学院があるということがうちの組合員になる強みといますか、今はこういう時代ですから、きちんと教えてもらうということが非常に大事で、うちの組合員になればそういう学院に入れますということが、組合の売りになっています。

また、ちょっと話が違うのですが、私どもの組合は日本塗装工業会北海道支部の事務局もしてまして、私はその事務局長でもあるのですが、昨年からは女性を対象にした取組を実施していて、昨年は四国や大阪、今年は札幌で開催するのですが、資生堂の美容部員の方に来ていただいて、1日かけて化粧や身だしなみなどといったお話をしてもらう取組を行っています。今年は100名ぐらいを対象に7月に開催する予定です。

やはり、少しずつ女性も入るようになってきています。大阪などでは、大きな塗装の会社だと、女性のチームを組んで、一般の戸建ての家の塗装に行くということをしています。男性と女性で行くとなかなか難しいのですが、女性でチームを組めると、お客様も自分の家を塗ってもらうのに、女性は丁寧だと。ごつい男性よりはいいということで、大きな会社ではそのようなことをしています。

札幌では、入っても1名か2名なので、なかなかチームを組むほどにはならないのですが、今や、女性に入ってもらわないとなかなか難しくなっています。塗装というのは、それほど力仕事ではないので、女性の仕事として非常にいいと思います。ものづくりに携わって、非常にきれいに出来上がれば、古い建物がお化粧をしてきれいになるということで、

とてもやりがいを感じるという声も女性たちから聞いています。

そういう意味では、これからもっともっと女性に入ってもらえればな、と思っております。

#### 〈札幌環境維持管理協会〉

まず、学校自体、専門性の高い高校の生徒数だけではなくて、建設業自体の専門を扱う学科自体、または大学もかなり減少しているところで、業界の中では、当社もそうですが、新卒者を募集してもなかなか入らないというのが実態で、学校さんと毎年必ず入れるというお約束でもない、新卒者をなかなか採れないというのが実態です。

弊社も、春に10年ぶりに新卒者が2名入りましたが、10年前に5、6人が入りまして、10年たった今、残っている新卒者は2名という実態です。よく言う3年で5割前後が辞めるといえるのは、大企業も中小企業も大体同じぐらいかと思います。そういう中で、経験は問わず、当然、性別も年齢も問わずという形で長年募集を続けてきましたが、おかげさまで、中途はかなり出入りが激しいですけれども、門をたたいていただける率が高いです。

教育については、そういった形ですので、オン・ザ・ジョブ・トレーニングで、会社の勤務時間を利用して研修受講や先輩職員が教材を使って教えている状況です。

建設業は、技術・技能職員だけではなくて、経理事務も結構特殊でして、こちらでもオン・ザ・ジョブ・トレーニングでやらないとなかなか対応が難しいということがあります。

女性の雇用については、当社は4月で技術・技能者の女性割合が24%、会社全体で38%ぐらいまで今は引き上げているのですが、今回の入社する2名というのは、今、アマチュアの女性スポーツの協賛をしています。アマチュアなので、働きながらスポーツをする、そういったことに協賛することによって、女性をターゲットにして雇用を創出できるのではないかとということで、実は2年目でそういうことが実現しまして、1名は高校生、1名は大学生、両方とも女性ですが、技術・技能者の現場職ということで入っていただいています。この辺は、他業界でも同じく活用できる場所ではないかと思っております。

#### 〈北海道大学 高野教授〉

具体的に、そのスポーツをやるときは勤務時間をシフトするということですか。

#### 〈札幌環境維持管理協会〉

基本的には、毎日、仕事が終わってから練習に行きますが、道外など遠方地での試合もありますので、そういうときに合わせて、ワーク・ライフ・バランスということで、確定した曜日を完全に休みにすることもあります。欠勤にする方が得だという考えもあり、そこは労使で話をしながら多種多様な働き方を設定しております。

#### 〈札幌環境維持管理協会〉

スポーツ自体は60歳までというのはなかなか難しいので、セカンドキャリアとして、存分にスポーツをやって、どこかでスポーツができなくなったときに自社の方で最後まで働いていただくというふうに変換肢を広げることで、逆に雇用契約を結ぶということになるのではないかと考えて取り組んでいます。

#### 〈札幌市設計同友会〉

重点政策Ⅱに、女性が入職・定着しやすい環境の整備の推進とあります。そこで、去年の例ですが、資料3-1の1ページの右上、各種助成金制度の表の最初と2番目で、女性労働環境整備、女性装備品購入は結構な実績がありますけれども、今、この具体的な中身が分かればご紹介いただけますか。

それを教えていただきましたら、私どもも会員企業に、こういう制度がありますよ、こういうことをすると女性の定着に資するのではないかと情報提供したいと考えております。

私が考えるに、女子トイレをきれいにするとか、更衣室をつくるとか、休憩室をつくるとか、その程度しか想像できなかったものですから、この具体が分かればご紹介いただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

#### 〈事務局〉

女性労働環境整備は、女性トイレや更衣室を工事現場に作る時に、かかった費用のうちの50万円まで助成するという制度です。また、女性装備品購入は、女性用の作業服やヘルメットなどを購入する場合に、1人当たり最大で3万円、これを助成金として申請していただいて、それに対して市の方で支出していくという制度です。

### ◆重点施策Ⅲ：時間外労働の縮減に向けた「働き方改革」の推進に関する意見

#### 〈北海道大学 高野教授〉

建設事業への「時間外労働の上限規制」の適用開始は、2024年ですから、あと1年ですが、週休2日対応工事については、発注の仕方も色々取り組まれております。維持工事などは土・日を休みにすることはできないので、全体の中で4週8休というのをうまくバランスを取ってやるということを考えながら週休2日を確保していこう、という話が出ております。

#### 〈財政局工事管理室〉

札幌市では週休2日試行工事を発注しており、その高い割合で4週8休を達成していただいているという状況でございます。一方で、先ほど事務局からもお話がありましたが、

国の方では、より理想的な姿として、毎週土・日を休日とする完全週休2日を目指されているようで、その第1段階として、これまで週休2日の取扱いについては、工期全体で休日数を管理していたのですけれども、より細かに行っていますか、月単位で4週8休を確保するというように、目標水準を高める検討を国でしていると伺っています。

しかし、札幌では、降雪もありますし、現場対応としてなかなか難しい部分もあると感じているところですが、この週休2日の目標設定などにつきまして皆様のご意見を伺えればと思います。

#### 〈北海道大学 高野教授〉

一番厳しく考えると、土・日を完全休日にするというのですが、それがかなわない場合は、月単位で4週8休にして、それがかなわない場合は、全体工期の中で4週8休に相当する休日を取るといったような色々な段階があるのだと思います。そういう段階を考えても、なお、維持工事をはじめ、天候に左右される札幌ではなかなか苦しい状況があるのだと思いますけれども、そこら辺の実態や、2024年度に向けての取組というところのご質問でございしますが、いかがでしょうか。

#### 〈札幌市管工事業協同組合〉

週休2日の試行は、北海道でも行っていて、概ね週休2日は確保できている状況です。

ただ、その分、平日に忙しくて残業が増えるとか、色々と課題はあるのですが、働き方改革というのは、各社がトータル的に努力していかなければいけない問題だと思うのですが、札幌市には、もっと厳しく週休2日の指導を現場単位で行っていただければと思っています。

また、業種が建築、電気、設備等と重なる場合も、全体的に考えていただいて、週休2日を取れるようお願いしたいです。あまり大きな声では言えませんが、我々設備の方で休みたくても、ほかの業種との関係で休めないような工程になっているとか、色々あると思います。

また、書類の簡素化とか、ウェブカメラやメールなどでの承認とか、そういうもので極力時間がかからない施工管理の仕方をお願いしたいと思っています。

最終的には各社の努力でやっていかなければいけないと思いますが、その分、発注者と請負者が一緒になってやっていきたいと思っています。

#### 〈北海道大学 高野教授〉

現場作業が終わった後に報告書とか色々な書類書きで残業しなくてはならないとか、それが積みもって土・日にまで残ってしまうということもあると思います。まずは、そういうところを率先してなるべく簡素化・効率化にできるようにしていただきたいということです。

公共工事は週休2日に向けて色々な取組が進んでいますが、民間はなかなかそうもいかないということで、会社としては民間と公共を合わせて週休2日を考えていかななくてはならないということだと思います。

#### 〈札幌塗装工業協同組合〉

なかなか難しい、という話をさせていただきたいと思います。

塗装というのは、元請もやりますし、ゼネコンさんの下に入る下請も多いです。そのほかに、戸建ての一般住宅もあります。公共工事であれば、週休2日を目指して取り組みますが、職人さんが50代、60代でかなり熟練した方で、技能も高く、子育てもある程度終わって時間がある、まだ日給月給が半分ぐらいがあるという状況もあり、どうしても稼ぎたいということになるわけです。

さらに、そのレベルの人たちは役所仕事であれば、当然、土・日はお休みですが、その土・日で民間の仕事もしくは戸建ての家の塗装に行くというように、ある意味でうまく回して、常に働いているような形がどうしてもあります。

一方、若い子たちが入っているところは、若い子たちはお休みが欲しいですから、社長も、若い子たちはみんな月給にして、お休みを与えてというふうにしています。ただ、仕事の多い夏場は、日曜だけお休みにして、足りない分は冬場にまとめてという形で考えているようです。

ただ、どうしても冬場は仕事が少なくなるので、ずっと月給制でいくのは企業的には苦しいというのが実態で、本州へ出稼ぎに行ってこいという実態もあるようです。それを若い人に言うと、それなら会社を辞めますという話になるようで、非常に難しさがあるのかなと思います。

しかし、今いる人たちも、あと10年もすればリタイアする人も多くなるので、そうは言っていられないよねというのが今の実態です。

#### 〈北海道大学 高野教授〉

来年、2024年度に向けて、組合としても何か対応を考えているということはあるですか。

#### 〈札幌塗装工業協同組合〉

組合としてはなかなか難しいですね。今、82社いまして、何十人も抱えているところは組織としてしっかりしていますが、一番多いのは10人未満の会社で、そのうちの半分以上は5人未満という会社が多いですから、なかなか難しいと思います。

そうしないと人も集まらないということで、頑張っているようではございますけれども、組合としてどうする、こうするというのはなかなか言いづらいです。

#### 〈札幌建設業協会札幌部会〉

働き方改革に関しては、なかなか明確な打開策が見い出せないでいるのが現状でして、当協会におきましても、数年間、札幌商工会議所さんと連携を図りながら、商工会議所の会員企業の方々と協会の会員企業の方々にウェブ方式や対面を含めたハイブリッド方式において、働き方改革セミナーを例年開催してきております。

ただ、そこにはそろそろ限界を感じていまして、セミナーの開催だけではなく、各会員企業での成功事例を実際に挙げたり、具体策や、実践的かつ効果的な取組がないかということで、今、当協会でも非常に悩んでいるのが実態です。

今、国でも完全週休2日制で土・日は閉所の形で進んでいくという話はあるのですが、建設産業に携わる皆さんは、どうしても札幌特有の天候に左右されての施工になりますから、工期内での週休2日相当を取得するという事は、当会員企業、特に土木部門においてはかなりの会社で実施できているのですが、今お話がありました民間建築に携わっている会員企業の方々からはかなり厳しいという話があります。

特に土木系の技術者の方々においては、閑散期にしっかり休みを取っていただくという措置は取れるのですが、技能者の方々においては、日給月給の方々が多い中で、2024年問題をどう乗り越えていけばいいのか、頭を悩ましているのが実情です。

#### 〈北海道大学 高野教授〉

コンサルタント業界は、既に改正労働基準法に対応されてこられたわけですが、そういう経験から何か参考になる取組などはございますか。

業態が違いますから、状況は異なり、コンサルタント業界では日給月給ということはほとんどないと思うのですが、何かございますか。

#### 〈建設コンサルタンツ協会北海道支部〉

コンサルタント業は、仕事をインハウスで行っておりますので、管理という面では全くタイプが違うとご理解いただきたいと思いますが、令和2年度第1回協議会のときに、ワーク・ライフ・バランスとか週休2日に関する平準化、残業の平準化というお話をさせていただきました。

そういうことは今でも続けておりますし、札幌市と協会との意見交換会でも、この資料にあるとおり、平準化に対する国債を活用した年度またぎの履行期限の設定は、我々としても重要なポイントでして、コンサル業については、そのときも申し上げましたが、2月、3月は急激に残業が増えるということで、そこでは全ての問題が集約してくるということなので、平準化というのは我々にとって一番必要な対応だと考えております。

また、資料の2ページ目の効率化のところでは、ウィークリースタンス、ワンデーレスポンスも非常に重要です。例えば、マンデー・ノーピリオドとかフライデー・ノーリクエストとか色々な言葉があるのですが、何にせよ、コンサルタントですと、条件明示が輻輳したり、条件が整わないと、それで工程がどンドンずれていくということがあります

ので、発注者さんとの業務スケジュール、条件明示、それを含めた全体の工程管理が非常に高度化していくというのが我々にとって非常に重要で、受発注者共々そういった考え方を持って業務を進めていくということは非常に大事だと思っております。

参考になるとは思いますけれども、北海道開発局で業務環境の改善に向けた取組とか成果の品質向上プロジェクトがありますので、こういったものを支えにして、当協会も業界全体で業務の効率化を進めているところでございます。

そういった意味で追加すると、ほとんど年度末工期で集中していますから、何か設計変更があったときにはそれがオーバーフローにつながるということもありますから、年度またぎの履行期限の設定という部分の配慮もあれば、さらに残業の低減につながるかなと思っております。

#### 〈札幌市設計同友会〉

私どもは会員企業に対してアンケート調査を毎年やっておりますけれども、去年のアンケート調査結果で、時間外労働について聞いた項目があります。そうすると、8割の企業は、時間外労働はあるけれども、深刻な問題になっていないと答えているのです。

これは、ここ最近のことです。まさに市当局や色々な発注者の皆様の取組のおかげで劇的に改善してきたと思っております。ここは本当に感謝いたします。

業務が集中するタイミングが、二つほどあります。

一つは災害時です。普段は事務所の中で道路や橋の設計をしている技術者が、現場に飛んで行って点検とか色々なことをやるわけですが、これについては全て契約によって後で精算されます。札幌市と設計同友会で結んだ災害時の連携協力に関する協定においても、以前はボランティアだった対応が、今は有償協力になっています。また、技術者が、災害時に現場に飛んでいくことは、自分たちのアイデンティティーであり、誇りとするところであり、一般的なものであれば問題にならないだろうと思っております。

もう一つは、年度末です。年度末に納期が集中することと、特に今は次年度の仕事が前倒し発注みたいになって、今はまさに3月が業務のピークになっており、一番の繁忙期です。

ここについては、引き続きこういう施策の推進をお願いしたいと思っております。国債を活用した年度またぎの履行期限の設定といった取組が、時間外労働の縮減に関して非常に重要ですので、よろしく願いいたします。

### ◆重点政策Ⅳ：生産性向上に向けた「建設DX」の推進に関する意見

#### 〈北海道舗装事業協会〉

ICT活用の拡大等が載っておりますが、これは非常に大事なことだと思います。もちろん、担い手確保を最大限やるのですが、子どもの数が減っていますので、退職する人を

補うため、ほかの業界との奪い合いということで、難しいのかなと思っております。そう  
なると、決め手はこの生産性向上しかないと思っております。

ただ、私どもの会員企業からも、ICTの導入に負担を感じるとか、なかなか効果が実  
感できないという声が少し聞こえております。どのくらい生産性が向上するのか、サン  
プルのでもいいと思うのですが、算出していただいて、何%くらい向上するとか、どう  
いう工事だとすごく効果が高いとか、効果を実感できるような数値といえますか、そ  
ういうものを取ってみるのはどうかと感じております。

この算出はなかなか難しいと思うのです。労働生産性というのは、分母は投入した人  
員だったり時間だったりすると思うのですが、分子は施工量なのか、売上げなのか、ち  
ょっと分かりませんが、そこら辺を簡単に算出できて、このくらい効果があるのだ  
ということをアピールできるようなものをつくったらどうかと感じました。

#### 〈北海道大学 高野教授〉

ICTあるいはDX対応については、社内の色々な環境整備をはじめ、システムの導入  
等、予算を確保しなくてはいけないため、そういう投資をしてどこまで生産性が向上  
するのか不安であるので、事例やその効果を明らかにしていただきたいということ  
ですね。

#### 〈北海道造園緑化建設業協会札幌支部〉

ICTに関しては、大型のものから小型のものまで色々あって、私どもの業界も色々  
勉強しながら、小型のものでどう対応できるかということをやっておりますが、聞  
いている範囲では、作業の効率化はできても、慣れた人がいない過渡期なので、  
現場代理人さんの負担が結構あるという話を聞いています。

それから、作業的なICTの活用もそうですけども、建設DXということで、生産  
性の向上ということで、書類の簡素化の部分でも、例えば札幌市で共通のシ  
ステムを作り、そこに入力することで、市が求める必要書類が簡単にできると  
いったシステムがあると非常に労働時間の短縮につながると思います。

今は、個々の会社が書類の見せ方も含めて競い合っていて、点数を取って  
いますが、そういうところに時間がかかっていたり、幾ら簡素化されても、  
監督によって求めてくる書類が違ふということもあります。

細かいこと言うと、発注工事のASPの活用とありますが、協議簿などをASP  
でやり取りできるシステムを試行しても、それはそれでやって、今までのもの  
も別に出してくださいという二重の手間になっているということがあります。

そういうことの積み重ねだと思いますので、共通したものがあると、  
生産性の向上に非常に貢献できると思います。ぜひ検討していただければ  
と思います。

#### 〈北海道大学 高野教授〉

過渡期ということもあって、目的は生産性向上だけど、かえって二度手間になってしまう場合もあるということですね。

#### 〈札幌市測友会〉

I C Tによってどれだけ時間短縮あるいは労働力を抑えられるかという話ですが、胆振東部地震の際に、道庁から被災全域の計測をやりたいという話がありました。その計測をU A Vで行いたいということだったので、厚真町全域をU A Vで計測したら90日かかります。9月の発災直後からでしたら年内に終わるかどうかでしたが、当社に発注してもらえれば航空レーザーで1日で計測できると伝え、最終的に航空レーザーでの計測を行いました。このように、皆さんはI C Tをあまりにも過信し過ぎているのではないかと思います。

また、厚真町の帰りに、里塚地区の液状化した地盤データを点群で計測して、そのデータを札幌市に無償で提供しました。しかし、そのデータは、札幌市では誰も使い方が分からないということで、コンサルや北大に渡したが、結局、どなたも検証されなかったと聞きました。

このように、新しい技術を効果的に活用するためには、市側の勉強も必要と思います。今後、何かの機会と一緒に研修会を受けていただければと思います。

### 【議題2】小学生向けパンフレット（完成原稿）について

#### 〈札幌市設計同友会〉

パンフレットは、色々な方の意見を取り入れながら作られたということですが、このパンフレットが今年だけではなくて来年とか再来年に長く使おう、あるいは、どんどんバージョンアップしていこうということであれば、ぜひ小学生の意見を聞きながらやるとういかなと感じました。

今の小学生は、なりたい職業のトップにユーチューバーとかスポーツ選手、女の子でしたらイラストレーターとかパティシエが出てくるようで、建設業に向いてもらうのはなかなか難しいと思うのです。

ですから、これが小学生の目線なのか、むしろ、我々の意見を聞くよりも、小学生の意見を聞いて、時間的余裕を含めて可能であれば、その上で本印刷になればいいのかなという感想です。

#### 〈事務局〉

パンフレットについては、私どもの職員の子どもに見てもらって、その意見を参考にしましたが、今後も、バージョンアップしていくような際には、子どもから意見を反映しながら進めたいと思います。

### 〈札幌市測友会〉

私は、札幌若力会という業界の青年部の会長を長年務めておりましたが、小学校測量体験学習会という市内の小学校6年生に測量を教えに行くという出前授業を今年の7月に控えております。その際に使えたらなということも含めて前回のこの会議で発言したのですが、測量士というのが5センチ角ぐらいの小さいところにしか登場していなくて、あとは建設業の流れというコンセプトでつくられたのかなと拝見しました。ですから、私どもの測量という仕事を紹介するときにはなかなか使いづらいと感じました。

また、どこで配るかという話ですが、私は今、ミニ大通の活性化協議会にも参加しております。今夜も桑園ふれあいセンターで会議がございます。そこは、まちづくりセンター併設ですので、学童保育ですね。まちづくりセンターにそういった子どもが出入りするのであれば、そういったところに置いてもいいのかなと思います。近くに桑園小学校がございますから、桑園小学校に持っていくのも効果があると思いますけれども、多面的、多角的に様々なところで手に取れるようにするというのも手かなと思いました。

また、私はボランティアで子ども食堂のお手伝いをしておりまして、そこでも5・6年生ぐらいの子どもと一緒に昼ご飯を食べてもらっております。その子どもたちも、そこそこ職業に対する意識は子どもながらに持っていますので、小学校はまちまちですけれども、そういった子どもが集まる場でこういう冊子を紹介できたらいいのかなと思いました。

この冊子は子ども向けにも非常にいいですけれども、大人向けにも活用できるのかなと思いつつ読んでおりました。

### 〈北海道大学 高野教授〉

色々な使い方を想定できるということですが、現時点ではどのような使い方を考えているのか。また、皆さん方がイベントなどで使いたい場合には、いただける状況なのか、教えてください。

### 〈事務局〉

まず、市内の小学校は全部で199校あるのですが、そこに10部ずつの配布を予定しております。また、今年行う各種のイベントで配布するとか、先ほど申し上げたような雪体験事業を想定しながら、そういったところと連携して配布するというのを考えております。

まずは、皆さまにデータをお送りしたいと思っております。印刷したものについては、ご要望に応じて対応させていただきます。

### 【議題3】その他情報提供などについて

◆情報提供 1 : 若手職員による意見交換会について(建設コンサルタンツ協会北海道支部)  
〈建設コンサルタンツ協会北海道支部〉

当協会の北海道支部の若手職員による意見交換会について、紹介させていただきます。

若手の会につきましては、この業界で若手職員が抱えている課題を共有して課題解決に向けて提案を行うという目的で、2018年に組織されました。協会企業が約60社ですが、そのうちの15社、15人程度で設立しております。

これまでは、2019年に当協会支部の50周年記念事業がありましたので、座談会なり、現行のお仕事体験イベントの参加など、それから、昨年はテレワークの調査などを行っていただき、その中の一つとして、北海道開発局と健コン北海道支部若手職員による意見交換会になります。

この経緯ですが、発注機関など他団体の若手職員と交流、意見交換をしてみてもどうか、ということも2021年から企画して、去年の12月に開発局との意見交換が実現したということで、北海道庁や札幌市等にも声かけをさせていただいております。

目的につきましては、建設業界が抱える諸課題に対する解決策や、今後のさらなる発展等のアイデアを若手の視点から導き出したいということで行っておりまして、参加者としては、開発局から12名、建コンから11名ですが、これを4グループに分割して、ワークショップ形式で進めました。

結果概要としてまだ未整備ですが、労働環境とか、世代交代、育成、人材不足問題やコミュニケーション、今回はコロナ禍ということもありましたので、このような課題が何か出ました。解決案としては、最新技術活用による効率化、高度化、それから、社会へのPR活動、テレワーク等への対応など、ワークショップですので、付箋を貼りながら、それを取りまとめている最中だと聞いております。

結果評価としては、開発局さんも含めておおむね好評だと聞いておりますし、今後も参加したいという意見が多数を占めているということでございます。

双方、初めての試みでして、新しい活動でこういった共有が図られたことは非常に意義があったと思いますが、そういった意味では今後も期待しているところです。

今後の方向性ですけれども、開発局さんと建コンの若手同士で継続的な実施を希望されている方が多かったということなので、出された提案の深化、あるいはテーマの拡大等々が今考えられていますが、まだ企画中です。

一方で、先ほども申しました他の発注機関・団体の若手職員さんとの意見交換会も希望しているということですので、今回を通じて若手の会から札幌市の若手職員との意見交換会も期待しているということで、締めさせていただきたいと思います。

〈北海道大学 高野教授〉

各企業や団体、市役所では、ある一定年齢になりますと、他の組織の方々に知り合いができるのですけれども、若手というのは、会社内とか学校の関係しか知り合いがいなくて、

横のつながりは極めて薄い状況です。そういう意味では、狭い世界の中での活動になってしまうので、東北建設業協会さんは技術者と技能者が一緒に研修をしたりしていて、若いうちに多くの企業間での人脈をつくってもらおうという取組をされていて、結構うまくいっているという話も聞いておりますが、若手のうちに横のつながりをつくっていただくというのは定着という意味で大変いいと思います。

これは、技術者や技能者の連携も考えていただくと、一層多様になるのではないかと思います。

#### ◆情報提供 2：下水道展’23について

##### 〈下水道河川局管路担当部〉

今年の8月1日から4日の期間において札幌で開催される下水道展’23について紹介させていただきます。

この下水道展は、下水道関係者を対象に、幅広い技術や機器を展示するとともに、一般の方々にも下水道への理解と関心を持っていただくことを目的に、毎年8月上旬頃に開催されておりまして、下水道に関する国内最大規模の展示会です。

その展示会を今まで東京以北では開催していなかったのですが、今年初めて札幌開催ということで、場所は札幌ドームで開催されることとなっております。

ちなみに、昨年8月には、東京ビックサイトで下水道展が開催されまして、企業の出展数が315社、来場者数も3万人を超えるなど、コロナ禍で感染状況が悪化していた中でも相当の企業が出展して、多くの来場者がありました。

札幌市では、今回、道内各都市と連携いたしまして、ゲームやアトラクションで下水道を楽しみながら学べるコーナーや、道内各地のご当地グルメのキッチンカーを用意いたしまして皆さんに食事を提供したり、特産品の販売などのおもてなしコーナーを設置して、皆さんにお越しできるようにしたいということを予定しております。

この下水道展’23の出展の申込みは既に終了しているのですが、今年においては全国から約200社、道内においても、本市のほか、複数の企業の出展が予定されているところです。

また、今回、下水道展の開催を記念いたしまして、これも参考資料があるのですが、札幌市では下水道初のキャラクターを活用した、今は全国的に有名である雪ミクのデザインのマンホールを現在制作中です。それぞれのデザインは、札幌の四季を感じてもらうために4種類と、札幌を代表する食であるジンギスカンをデザインしたものを合わせて5種類用意しようということで、今、制作中です。

実際の画像については、お手元に配付しておりますので、参考までにご覧ください。

結びになりますが、開催都市としてしっかり準備を進めておりますので、この機会に下水道展へお越しいただけるよう各会社の社員の皆様にぜひともお声かけをいただきまして、

いっぱい来ていただければなと思っているところです。

以 上